

Oracle® Warehouse Builder

リリース・ノート

10g リリース 1 (10.1)

部品番号 : B13518-01

原典情報 : B12149-01 Oracle Warehouse Builder Release Notes 10g Release 1 (10.1)

2004 年 6 月

このリリース・ノートでは、Oracle Warehouse Builder に関して次の情報を提供します。

- 日本語環境での使用上の注意
- 要件
- 関連資料
- 新機能と廃止された機能
- 既存の機能における既知の制限事項
- ドキュメントの正誤表
- 解決済の問題



Copyright © 2004, Oracle. All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。記載されている他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

1 日本語環境での使用上の注意

日本では未サポートの機能について

本リリースでは、次の機能は日本ではサポートされません。

- SAP データソース
- Name and Address 演算子
- OLAP Server への Bridge 機能

オンライン・ヘルプについて

Oracle Warehouse Builder 10g のオンライン・ヘルプは、現在日本語化されていません。

タイトルにマルチバイトを含む SQL*Loader マッピングの実行について (Bug#3498273)

UNIX プラットフォームにおいて、マッピング名、マッピングに含まれるオブジェクトのオブジェクト名または列名にマルチバイト文字を含む場合、SQL*Loader マッピングが実行できません。

対応策

SQL*Loader のマッピングにはシングルバイトを使用してください。

Tru64 でアップグレード・スクリプトが実行できない (Bug#3627190)

Tru64 環境の Runtime Platform Service を使用した場合、アップグレード・スクリプトが実行できません。

対応策

オブジェクトのアップグレードを手動で行い、その後メタデータを Design Repository に再インポートします。

ドキュメント内の誤り

Oracle Warehouse Builder トランسفォーメーション・ガイド

『Oracle Warehouse Builder トランسفォーメーション・ガイド』の第 3 章「SQL 変換」において、次の事前定義済ファンクションの解説が掲載されていません。

Character カテゴリ

- NLSSORT
- NLS_INITCAP
- NLS_LOWER
- NLS_UPPER
- SUBSTRB

Conversion カテゴリ

- NLS_CHARSET_DECL_LEN
- NLS_CHARSET_ID
- NLS_CHARSET_NAME

Date カテゴリ

- SYSDATE

Numeric カテゴリ

- ACOS
- ASIN
- ATAN
- ATAN2
- COS
- COSH
- LN
- LOG
- SIN
- SINH
- TAN
- TANH

OLAP カテゴリ

- WB OLAP LOAD_CUBE
- WB OLAP LOAD_DIMENSION
- WB OLAP LOAD_DIMENSION_GENUK

上記のファンクションのうち、OLAP カテゴリのファンクションの解説は、『Oracle Warehouse Builder ユーザーズ・ガイド』より参照できます。その他のファンクションの解説は、『Oracle Database SQL リファレンス』より参照できます。

2 要件

この項では、Oracle Warehouse Builder との互換性があり、動作が保証された Oracle Database のバージョンと必要なパッチを紹介します。システム要件の最新情報は次の URL を参照してください。<http://www.oracle.co.jp/products/system/index.html>

Oracle Warehouse Builder 10g リリース 1 (10.1) では、次のバージョンの Oracle Database がサポートされています。

- Oracle Database 10g
- Oracle9i リリース 2 (9.2.x)
- Oracle8i リリース 8.1.7.4.x

Oracle Warehouse Builder 10g は、現在 RAC データベースに対して動作が保証されていません。

各プラットフォームのシステム要件は次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/products/system/index.html>

OLAP Bridge の機能は、Windows プラットフォームでのみ有効になり、Name and Address Server は、Windows と Solaris プラットフォームでのみ使用できることに注意してください。

一般的な接続を含むすべてのゲートウェイで、データベース・パッチをリポジトリとターゲット・データベースの両方に適用する必要があります。

3 関連資料

関連資料へのリンク先は、%OWB_ORACLE_HOME%\doc ディレクトリの html ページ *index.htm* にあります。

あるいは、%OWB_ORACLE_HOME%\doc ディレクトリの下にある HTML または PDF 用のサブディレクトリにあります。html ドキュメントを参照するには、%OWB_ORACLE_HOME%\doc\<資料名>\toc.htm に移動します。toc.htm ファイルをダブルクリックすると、選択した資料の目次が表示されます。

Oracle Warehouse Builder 10g のドキュメントには、次の資料が含まれています。

- 『Oracle Warehouse Builder インストレーションおよび構成ガイド』
- 『Oracle Warehouse Builder ユーザーズ・ガイド』
- 『Oracle Warehouse Builder トランسفォーメーション・ガイド』
- 『Oracle Warehouse Builder スクリプト・リファレンス』
- 『Oracle Warehouse Builder Java API Reference』(html 形式のみで提供。)
- 『Oracle Warehouse Builder リリース・ノート』

4 新機能と廃止された機能

Oracle Warehouse Builder リリース 10g の機能は、Oracle Warehouse Builder リリース 9.2 と同じですが、次の点で異なります。

- Oracle Warehouse Builder 10g では、Oracle Database 10g のソースとターゲットをサポートしています。
- サーバー側のインストールと設計時のインストールとの区別がなくなりました。Oracle Warehouse Builder 10g には、データベース・サーバー用のインストール・タイプが 1 つしかありません。これを Oracle Database のインスタンスをホスティングするコンピュータにインストールします。設計クライアントとして使用するコンピュータには、Oracle Database のインスタンスがインストールされていなくても、Oracle Warehouse Builder 10g をインストールできます。
- Oracle Warehouse Builder 10g では、*owb/rtp/sql/set_oem_home.sql* スクリプトを使用したリモート実行が可能になっています。詳細は、[21 ページの「ドキュメントの正誤表」](#) にある「リモート実行」を参照してください。
- Oracle Warehouse Builder 10g は、HP OpenVMS と IBM zOS (OS/390) 以外では、Oracle Database 10g と同じプラットフォームで利用できます。そのため、Oracle Warehouse Builder 10g は、Oracle Database 10g と同様に、64 ビット版の Solaris プラットフォームで利用可能で、32 ビット版の Solaris プラットフォームでは利用できません。
- Express のブリッジのサポートは廃止されました。

5 既存の機能における既知の制限事項

この項では、以前のリリースの機能における既知の制限事項について説明します。制限事項は分野別にまとめられています。

5.1 ブリッジ

Express のブリッジは Oracle Warehouse Builder 10g リリース 1 (10.1) でサポートされない。

このリリースからは、Oracle Warehouse Builder で Express のブリッジがサポートされません。ドキュメントにおける Express のブリッジに関する記述はすべて無視してください。

一部のブリッジは UNIX でサポートされない

Discoverer Bridge では、Oracle Discoverer Administrator でインポートする EEX ファイルが生成されます。Oracle Discoverer Administrator は Microsoft Windows でのみ使用可能です。ERWin Bridge および PowerDesigner Bridge は、Microsoft Windows プラットフォームでのみサポートされます。

Repository Assistant および Runtime Repository Assistant: リポジトリの削除

Repository Assistant または Runtime Repository Assistant でリポジトリを削除すると、Assistant によってすべてのリポジトリ・オブジェクトが削除されます。ただし、データベース・リンクやユーザー配布オブジェクトなど、スキーマによるその他のオブジェクトは削除されず、スキーマそのものも削除されません。これらのオブジェクトについては、手動で削除する必要があります。

インストール後に最初ブリッジを実行できない (2237444)

最初のユーザー・インターフェース・セッションでブリッジを実行しようすると、`preferences.properties` ファイルが検出されません。

対応策

一度 Oracle Warehouse Builder Client を閉じて、再び開き、ブリッジを実行します。

5.2 クライアント

プロジェクトで切り取り / コピー / 貼付けを使用できない (2277487)

切り取り / コピー / 貼付け機能は、現在プロジェクトに使用できません。このような操作は、プロジェクト内に格納されたすべてのオブジェクトを含む設計オブジェクトのみに制限されています。

対応策

プロジェクトを別のリポジトリにコピーするには、メタデータ・インポート・ユーティリティとメタデータ・エクスポート・ユーティリティを使用します。

右クリックによるポップアップ・メニューが表示されない (1621822)

コンソールおよびモジュール・エディタでは、ノードを右クリックしてポップアップ・メニューを表示させる場合、水平方向のウィンドウの縮小とカーソル位置に注意する必要があります。ウィンドウを大幅に縮小させた場合、右クリックはノード・ラベルの左端か右端で行う必要があります。ラベルの中央部で右クリックすると、ポップアップ・メニューが表示されません。また、ウィンドウがポップアップ・メニューより狭いと、メニューは表示されません。

対応策

ウィンドウを水平方向に広げてポップアップ・メニューを表示させます。または、ポップアップ・メニューのかわりにメニュー・バー項目（「変換」、「編集」、「表示」など）を使用します。

コード内の引用符に囲まれたユーザー名とパスワード (2089342)

生成コードでは、ユーザー名とパスワードは常に引用符で囲まれています。ユーザー名やパスワードの周囲を引用符で囲まないでください。

使用可能なウィザードで演算子を表示して編集する (2854976)

このリリースでは、Match-Merge 演算子や Name and Address 演算子の表示および編集に、演算子プロパティのダイアログを使用しないでください。ウィザード・エディタを使用してください。Match-Merge 演算子や Name and Address 演算子を編集するには、マッピング・キャンバスで演算子を右クリックし、「編集」を選択します。「演算子のプロパティ」は選択しないでください。将来的には、ウィザードを持つ演算子で「演算子のプロパティ」ダイアログが使用できなくなります。

大規模なプロジェクトの検証および生成に時間がかかる (2998887)

非常に大規模なプロジェクトでは、検証結果のフェッチおよび表示に時間がかかることがあります。Oracle Warehouse Builder で利用可能なメモリーが十分になく、検証結果をフェッチする際にすべてのオブジェクトをキャッシュ内に維持できない場合は、このような状況になります。

対応策

大規模なプロジェクトの検証や生成に時間がかかる場合は、Oracle Warehouse Builder で利用可能なメモリーを増やします。owbclient.bat から Oracle Warehouse Builder を起動する場合は、最大メモリーが利用可能な物理メモリーの 80%に設定された Java コマンドを変更します。たとえば、次のように指定します。

```
...¥..¥..¥jdk¥jre¥bin¥java -Xms64M -Xmx512M -Dlimit=512M
```

ご使用のマシンで利用可能な物理メモリーに、この設定を適用できることを確認します。

5.3 相関コミット

パーティション交換ロードを使用してマッピングをロードする場合は、相関コミットを無効にする (2992304)

このリリースでは、パーティション交換ロードと相関コミットを使用するマッピングは失敗する可能性があります。

対応策

相関コミットを無効にします。

5.4 データベース・リンク

引用符で囲まれた小文字を使用して生成されたデータベース・リンクによって ORA-00942 が発生する (2720359)

データベース・リンクのモジュール・プロパティを更新し、小文字のユーザー名やパスワード、または小文字 / 大文字混合のユーザー名やパスワードを設定した場合は、生成されるデータベース・リンクに、引用符で囲まれた小文字または小文字 / 大文字混合のユーザー名やパスワードが含まれ、ORA-00942 が発生することがあります。データベース・リンクの構成（または9.0.4以上のリリースではロケーションの登録）では、データベース・リンクの生成時に入力されたユーザー名とパスワードの小文字 / 大文字の設定が維持されます。したがって、参照されるオブジェクトに適切な小文字 / 大文字の設定を使用する必要があります。たとえば、Oracle では大文字、一部の Oracle 以外のシステムでは小文字 / 大文字混合にします。

ゲートウェイに接続するデータベース・リンクでグローバル名を False に設定する必要がある (2789391)

ゲートウェイに接続するデータベース・リンクがある場合は、ランタイム・プラットフォームのホストでグローバル名を False に設定する必要があります。これは、インポートするユーザーが作成したデータベース・リンクに影響を与えます。インストールに関する注意事項では、グローバル名を False に設定するように指示しています。

配布後に移行したコネクタの再利用とマッピングの再配布 (3545736)

Oracle Warehouse Builder 9.2 から 10g に移行した後で、マッピングを配布する場合、それに対応するコネクタも配布しないと、「ORA-02019: 指定されたリモート・データベースは存在しません。」というエラー・メッセージが表示されます。

対応策

ソースとターゲットの GLOBAL_NAME が同じであることを確認します。同じであるかどうかを確認するには、ソースとターゲットのインスタンスで次の文を実行します。

```
SELECT * FROM GLOBAL_NAME;
```

名前が異なる場合は、コネクタとそのコネクタを使用するパッケージを再配布します。

5.5 デプロイメント・マネージャ

デプロイメント・マネージャでアップグレードの失敗が示されない (2786899)

デプロイメント・マネージャでは、失敗したアップグレードに対して配布ステータスが誤って表示されます。アップグレードが失敗するか、関連レポートでエラーが示されたためにアップグレードが配布されなくても、「ランタイム・リポジトリの配布結果」ダイアログではアップグレードの成功がレポートされます。

対応策

正しいステータスを取得するには、次のいずれかの操作を行います。

Runtime Audit Browser で配布ステータスを表示します。

または

「ランタイム・リポジトリの配布結果」ダイアログの上端のグリッドで、アップグレードされたオブジェクトを含む行をクリックします。詳細グリッドに、アップグレードに関する詳細な結果メッセージが表示されます。

ORA-12154 TNS の名前エラーを解決できない (2935974)

オブジェクトの配布時に、エラー・メッセージ ORA-12154 が表示されることがあります。ロケーション登録のダイアログに無効なネット・サービス名を入力すると、このエラーが発生します。現在 Oracle Warehouse Builder では、ロケーション登録のダイアログに入力された NetServicesName が検証されません。

ロケーションがローカルでもデータベース・リンクが生成される (2682262)

一部のケースでは、データベース・リンクが必要とされず、使用されない場合でも、Oracle Warehouse Builder によってデータベース・リンクが生成されます。

Runtime Repository 内ではロケーション名を一意にする (2712901)

ロケーションの識別方法に制限があるため、配布時にエラーが発生します。同一名のロケーションや、他のプロジェクトから以前配布されたロケーションを使用すると、このようなエラーが発生します。

最初にロケーションに配布すると、内部識別子がそのロケーションに登録されます。内部識別子を使用して、Design Repository と Runtime Repository 間で一意にロケーションが識別されます。他のプロジェクトからの同じロケーションを使用して配布しようとすると、エラーが発生します。以前使用されたロケーションを含むプロジェクトをインポートして、それを配布時に使用しようとすると、このような状況になります。Runtime Repository 内ではすべてのロケーション名を一意にする必要があります。ロケーション名を変更しても、内部識別子は変更されません。したがってロケーション名だけを変更しても、エラーが発生します。

対応策

- 各プロジェクトで新しいロケーションを作成します。プロジェクト間でロケーションを再使用しないでください。
- ロケーションの作成時にネーミング規則を使用します。他のロケーション名を複製しないでください。
- エクスポートしたプロジェクトやインポートしたプロジェクトを使用する場合は、新しいロケーションを作成して、すべてのロケーションを置き換えます。

依存性の処理時に発生したエラーによって、配布が失敗する (2944626)

アップグレードで選択されたオブジェクトの依存性の処理時にエラーが発生すると、配布は不可能になります。アップグレード・アクションで、名前が変更されたオブジェクトが配布されると、特定の問題が発生します。これによって、影響レポートに示されるエラーが発生し、配布を処理できなくなります。

対応策

次の方法で、オブジェクトを個別にアップグレードします。

- すべてのディメンションをアップグレードしてから、ディメンションを参照するオブジェクトをアップグレードします。
- すべてのマテリアライズド・ビューをアップグレードしてから、マテリアライズド・ビューが参照するオブジェクトをアップグレードします。この方法が不可能な場合は、変更されたマテリアライズド・ビューを削除して、マテリアライズド・ビューが参照するオブジェクトをアップグレードしてから、マテリアライズド・ビューを作成します。

キューブ、ディメンション、マテリアライズド・ビュー、表の新しい名前が、関連するレポートに伝播されない (2970967、2970970)

このリリースでは、Oracle Warehouse Builder でキューブ、ディメンション、マテリアライズド・ビュー、表の演算子の名前を変更できません。これらのオブジェクトの名前を変更しても、系統レポートと影響分析レポートには新しい名前が伝播されません。

Workflow 2.6 のプロセス・フローのロケーションが正しくアップグレードされない (3027103)

このリリースでは、デプロイメント・マネージャで Workflow 2.6 のプロセス・フローのロケーションが正しくアップグレードされません。

対応策

- プロセス・フローのロケーションでプロパティ・シートを開きます。
- 「詳細」タブを選択して、バージョン番号をクリックします。
- プロパティ・シートで「OK」をクリックします。
- デプロイメント・マネージャをリフレッシュします。
- これで、デプロイメント・マネージャで配布アクションを設定し、プロセス・フロー・パッケージを配布できます。

デプロイメント・マネージャで履歴が表示されない - 同一名の 2 つのロケーションがリポジトリ内に存在する (3027073)

デプロイメント・マネージャでは、1 つのロケーションに対するすべてのオブジェクトが、新規および以前に配布されたことがないものとして誤って表示されることがあります。複数の同一名のロケーションが Design Repository 内にある場合に、このような状況になります。

対応策

ロケーションの名前を 1 つ変更します。

デプロイメント・マネージャでランタイム・データベースの停止が認識されない (3547647)

Oracle Warehouse Builder がランタイム・データベースに接続された後、ランタイム・データベースの停止がランタイム・リポジトリ接続で認識されません。そのため、ランタイム・データベースが停止していても、デプロイメント・マネージャを起動できますが、停止したランタイム・データベースを再起動した後、Oracle Warehouse Builder からそのデータベースに接続できなくなる可能性があります。

対応策

Oracle Warehouse Builder Client を再起動する必要があります。

5.6 フラット・ファイルのソースとターゲット

大規模な EBCDIC ファイルを使用すると、フラット・ファイル・サンプル・ウィザードがハングアップする (2327414)

大規模な EBCDIC ファイルのサンプリング中に、フラット・ファイル・サンプル・ウィザードがハングアップすることがあります。これは、現在 Oracle Warehouse Builder では、行が <CR> 区切り、キャラクタ・セットが ASCII であるファイルのサンプリングしか想定していないためです。

対応策

代表的なデータのサンプル・ファイル（小規模なもの）をサンプリングしてから、ファイル全体をサンプリングするようにします。

フラット・ファイルと外部表のロケーションのパス指定 (2803476)

SQL*Loader マッピングを使用して、Windows プラットフォームを参照するフラット・ファイルと外部表のロケーションを定義する場合は、パスの後に次のようなディレクトリ・セパレータを追加します。

```
c:\temp\
```

次のようには指定しないでください。

```
c:\temp\
```

ターゲットにフラット・ファイルを使用してマッピングできない (3547516)

ターゲットにフラット・ファイルを使用してマッピングを実行する場合は、utl_file_dir パラメータを設定する必要があります。フラット・ファイルをロケーション D:\Directory_Name\ に設定している場合は、utl_file_dir も同じロケーション D:\Directory_Name\ に設定します。utl_file_dir を D:\Directory_Name\ に設定していない場合は、マッピングを実行できません。

5.7 ゲートウェイ

データベースの Generic Connectivity コンポーネントで FETCH-ACROSS-COMMIT がサポートされない (2585118、2584812)

ゲートウェイを介して Oracle 以外のソースにアクセスすると、「ORA-01002 フェッチ順序が無効です。」というメッセージが表示されることがあります。データベースの Generic Connectivity コンポーネントでは Fetch-across-commit がサポートされません。

HSODBC ソースでは、ビューの SELECT 文が表示されない (2604966)

HSODBC を介してアクセスした Oracle 以外のソース (SQL Server など) からビューが Warehouse Builder にインポートされるときに、ビュー・プロパティの「問合せ」タブには、ビューの作成に使用する実際の SQL が表示されません。

実行時の登録前に、ゲートウェイの位置接続が検証されない (2806240)

デプロイメント・マネージャまたは OMB Plus を使用してゲートウェイの位置を登録する場合、現在 Warehouse Builder では接続の詳細が検証されません。

対応策

RDB ゲートウェイから表にアクセスするには、マッピングで各表を構成し、既存のデータベース・リンクでそのオブジェクトにアクセスするように指定します。マッピングのデータベース・リンク・プロパティを使用すると、Warehouse Builder 以外でデータベース・リンクを手動で指定できます。次のような SELECT 文になります。

```
select .... from 'table@dblink'
```

5.8 マッピング・デバッガ

最初から最後まで通して実行できない演算子またはマッピングについては、ブレーク・ポイントを設定しない (2887323、2981111)

マッピングに複数のターゲットがあり、相関コミットが `true` に設定されている場合は、ターゲットにブレーク・ポイントを設定できません。最初から最後まで通して実行できない演算子にブレーク・ポイントを設定すると、ブレーク・ポイントが破棄されます。次の演算子にブレーク・ポイントを設定しても無効です。

- シーケンス
- マッピングの入力パラメータ
- マッピングの出力パラメータ
- マップ前プロセス
- マップ後プロセス
- 入力がないプロシージャ
- 出力がないプロシージャ
- 定数

結果の前に、マッピング完了のメッセージが表示される (2887449)

現在のリリースでは、デバッガによってマッピングが完了したというメッセージが表示され、進捗バーではアクティビティが引き続き表示されます。デバッグの結果はその後表示されます。この動作は正しくありません。デバッグの結果が表示されてから、マッピングが完了したというメッセージが表示されるようにする必要があります。

デバッガによって、定数とマッピングの入力パラメータ演算子用の 2 行が「ウォッチ・ポイント」タブに表示される (2962621)

このリリースでは、デバッガによって、定数とマッピングの入力パラメータ演算子用の 2 行が「ウォッチ・ポイント」タブに誤って表示されます。

デバッガでアドバンスト・キューがサポートされない (2979844)

このリリースでは、デバッガでアドバンスト・キューのデバッグがサポートされません。

デバッガによってログ・ファイルが作成される (2983137)

デバッガによって、`<owb home>/owb/bin/admin` ディレクトリにログ・ファイル `debugger.log` が作成されます。ログ・ファイルには、マッピングのデバッグ・セッション中に実行された各ステップ、生成コードが含まれます。このファイルが非常に大きくなった場合は、削除してください。

デバッガで、マッピングを編集できる (2996824、2981614、2976127、3020874)

このリリースでは、デバッガによってエラー・メッセージが表示され、デバッグ・モードでマッピングの編集を不正に許可することができます。デバッガ・セッション中は、マッピングを編集しないでください。

対応策

1. デバッガを停止します。
2. マッピングを編集します。
3. デバッガを再起動します。

「ORA-00972: 識別子が長すぎます。」というメッセージが、Oracle 以外のソースのマッピングで表示される (3012621)

Oracle 以外のソースを使用したマッピングについて、間接的なアクセス・モードでマッピング・デバッガを実行すると、エラー ORA-00972 が発生することがあります。31 文字以上の名前でデータベース・リンクを指定すると、このような状況になります。

対応策

データベース・リンク名を 30 文字以下で指定します。

5.9 マッピングの設計と構成

マテリアライズド・ビューのクエリー・リライト (1364923)

Oracle Warehouse Builder はデフォルトで、各ディメンション・レベルで一意キー制約を作成し、最下位レベルまたはスタンダード・アロン・レベルのディメンション表に対する一意キー制約を生成します。しかし、一意キーは NULL 値を許可するため、マテリアライズド・ビューのクエリー・リライトで問題が生じます。問合せがマテリアライズド・ビューにリダイレクトされなくなるためです。問題はマテリアライズド・デルタ結合です。この結合はマテリアライズド・ビューで発生し、問合せでは発生しません。廃棄するマテリアライズド・ビュー内の結合に対して、可逆式結合を保証する必要があります。

これには、外部キー関係と外部キー列の NOT NULL 制約を使用します。あるいは、(ディメンション結合キー列に対する) 外部結合とファクト (外部キー列) における結合キー列の NOT NULL 制約を使用することもできます。

対応策

ディメンション表のプロパティを開き、最下位レベルとスタンダード・アロン・レベルのすべての制約タイプを「主キー」に変更します。

セット・ベースのフェイル・オーバーが複数のターゲットに実行された場合の予測不能な結果 (1807064)

複数のターゲットが関与する場合、これらのターゲットへのマッピング順序は予測できず、全く同じマッピングでも生成ごとに異なる場合があります。フェイル・オーバー・モードでバッチ・プロセージャが失敗した場合、残りのセット・ベース処理はスキップされます。1 つの表に対してマッピングでエラーが発生したが他の表には発生していない場合、セット・ベース・モードや行ベース・モードでマッピングがエラーなしで実行されるかどうかは予測できません。これは次の点で影響を与えます。

- パフォーマンス
- 特定のケースにおいて、セット・ベース・モードで実行されるマッピングが行ベース・モードで実行されない (例: 外部キーを無効にすることが必要な TRUNCATE/INSERT など)

対応策

複数のターゲットを含み、相関コミットが true に設定されたマッピングを実行するとします。『Oracle Warehouse Builder ユーザーズ・ガイド』で、相関コミットに関する説明を参照してください。

パラレル行コードが 'true' に設定されていて、ロード・タイプが TRUNCATE/INSERT または INSERT であるマッピング (2698141, 2706928)

リモート表を参照するカーソルが引数としてテーブル・ファンクションに渡される場合、内部エラーによってテーブル・ファンクションの実行が失敗することがあります。「パラレル行コード」を 'true' に設定すると、このような問題が発生します。

対応策

「パラレル行コード」を 'false' に設定して、前述のような特性のマッピングを生成します。

セット・ベース・モードでスカラー表を返すテーブル・ファンクション演算子を含むマッピング (2702085, 2708816)

テーブル・ファンクション演算子の出力グループのプロパティ 'スカラー・タイプ' の表を戻します。'が 'true' に設定されている場合、そのテーブル・ファンクション演算子を含むマッピングは ORA-22905 エラーで失敗します。問題は、PL/SQL 変数で仮パラメータとしてコールされる、テーブル・ファンクションに対するスカラー引数にあります。

対応策

前述のような特性のマッピングを作成しないようにします。

ロードと一致に関する制約プロパティが、調整時に更新されない (2447219)

主キー列プロパティなどの制約プロパティを変更しても、インバウンド調整時にマッピングで更新されません。

対応策

1. 手動でプロパティを設定します。

2. 「制約による一致」で「拡張」ボタンをクリックします。

パラレル行コードが `true` となっている行ベースのマッピングが 90 分間実行され、失敗する (2761711、2763192)

完全外部結合を含む問合せが、参照カーソル・パラメータとしてテーブル・ファンクションに渡されると、実行時に不適切な行番号がフェッチされます。

対応策

完全外部結合がテーブル・ファンクションの参照カーソル・パラメータとして使用されるようなマッピングは作成しないようにします。

パラレル行コードが生成されないと、検証エラーが発生する (2761724)

マッピングで「パラレル行コード」が `true` に設定されているのに、次のような制限によってパラレル行コードが生成されない場合に、Oracle Warehouse Builder ではエラー VLD-1127 または VLD-1125 がレポートされます。

- 入力カーソルがリモート・スキーマのオブジェクト（表、ビューなど）を参照する場合。たとえば、リモート・データベース・スキーマの表に対する表演算子を含むマッピングは、パラレルで実行できません。
- テーブル・ファンクションでは入力としてシーケンスを取得できない。
- テーブル・ファンクションではマップ入力変数（Oracle Warehouse Builder でパッケージ変数として実装される）をパラメータとして渡せる。ただし、パラレル実行時には、パッケージ変数はプロセスのローカル変数として見なされます。これは、Oracle Parallel Query エンジンによって、パラレルの各問合せスレープ（プロセス）で異なるセッションが開始されるためです。セッション全体でパッケージ変数は共有されないため、パラレル・スレープによって、パッケージ変数の最終値は定義されません（スレープで書き込まれる場合）。したがって、パッケージ変数は IN OUT パラメータまたは OUT パラメータとしてパラレル化可能なテーブル・ファンクションに渡さないようにします。
- Oracle Warehouse Builder では、マッピング入力パラメータを含むマッピングをパラレル化できない。
- テーブル・ファンクションに渡された入力カーソルが、Oracle 以外のデータベースにあるオブジェクトを参照する場合。Oracle データベース・サーバー・パラレル・エンジンでは、Oracle Gateway を介してオブジェクトにアクセスする場合に、パラレル性を検出しません。たとえば、DB2 データベースの表に対する表演算子を含むマッピングは、パラレルで実行できません。
- Oracle Warehouse Builder では、BEFORE 行トリガーまたは AFTER 行トリガーなどのトリガーを持つ表を含むマッピングをパラレル化できない。
- 更新と削除は、パーティション化された表でのみパラレル化できる。更新と削除のパラレル化は、パーティション内またはパーティション化されていない表では不可能です。たとえば、マッピングに、削除 / 更新ロードがある表演算子が含まれる場合、ターゲット表をパーティション化する必要があります。
- 削除カスケードがある外部キーが含まれる表に対する削除はパラレル化されない。

対応策

「パラレル行コード」オプションを `false` に設定します。

パラレル・コードではテーブル・ファンクションという Oracle Database の機能が使用されるため、次のような状況ではパラレル行コードのマッピング構成オプションを使用できません。

マッピングの成功 / 失敗に関係なく、マッピング後のプロセスが実行される (2577706、2797671)

マッピングによって返されるステータスは、次の 3 つの値のいずれかです。

- SUCCESS – エラーなしでマッピングが完了しました。
- WARNING – エラーはありましたが、最大制限を超えることなく、マッピングが完了しました。
- ERROR – マッピングが完了しなかったか、エラーの最大制限を超えていました。

エラーの最大数パラメータは、セット・ベース・モード、行ベース・モード、フェイル・オーバー・モードにかかわらず、マッピングの全体的な実行に対するエラー・カウントに適用されます。次のケースを考慮してください。

- エラーの最大数が 50 に設定され、マッピングがセット・ベース・モードで実行されます。データは正しくロードされませんでした。セット・ベースの DML 文の失敗により、1 つのエラーが発生しました。マッピングによって返されるステータスは "WARNING" です。
- エラーの最大数が 50 に設定され、マッピングがセット・ベース・モードで実行され、「制約の有効化」プロパティが `false` に設定されています。データは正しくロードされましたら、制約を再有効化する際に 60 の制約違反エラーが発生しました。マッピングによって返されるステータスは "ERROR" です。
- エラーの最大数が 50 に設定され、マッピングが行ベース・モードで実行されます。一部のデータは正しくロードされましたら、多くのエラーが発生しました。50 個目のエラーの後、マッピングが停止されます。マッピングによって返されるステータスは "ERROR" です。
- エラーの最大数が 50 に設定され、マッピングが、行ベースに対するセット・ベースのフェイル・オーバー・モードで実行されます。データはセット・ベースのプロセスで正しくロードされませんでした。セット・ベースの DML 文の失敗により、1 つのエラーが発生しました。一部のデータは行ベースのプロセスで正しくロードされましたら、多くのエラーが発生しました。セット・ベースで 1 個のエラーがカウントされたため、49 個目のエラーの後、マッピングが停止されます。マッピングによって返されるステータスは "ERROR" です。

SQL*Loader マッピングの実行中に一意キー違反が発生するが、結果で問題が報告されない (2761777)

以前のリリースでは、SQL*Loader マッピングのダイレクト・モードがデフォルトで `true` に設定されていました。Oracle Warehouse Builder 9.2 からは、SQL*Loader マッピングのダイレクト・モードがデフォルトで `false` に設定されます。ダイレクト・モードを `true` に設定してパフォーマンスを向上させる場合は、SQL*Loader のドキュメントで、ダイレクト・ロード・オプションに関する制限を確認してください。

「先頭ソースの選択」ダイアログが適切に機能しない (2859423)

結合演算子を含むマッピングをデバッグする場合、デバッガによって結合の主要ソースを選択するよう求められます。このリリースでは、先頭ソースを選択しなくても「先頭ソースの選択」ダイアログを取り消すことができます。この動作は正しくありません。先頭ソースを選択する必要があります。

「一意キー」 ドロップダウン・リストでデフォルト・レベルの一意キーのみが表示される (2989450)

Oracle Warehouse Builder では、レベルの作成時にディメンション表の一意キーが生成されます。新規キューブ・ウィザードとキューブのプロパティ・シートでは、外部キーを作成して、これらの生成されたディメンションの一意キーを参照できます。また、ディメンション表ではカスタムの一意キーをいくつでも作成できます。これらのカスタムの一意キーを参照する必要がある場合は、キューブのプロパティ・シートを使用します。これには、キューブ・エディタを開いて「ファクト」メニューで「ファクトのプロパティ」をクリックします。「外部キー」タブを選択して、外部キーを作成し、ディメンション表で生成された一意キーまたはカスタムの一意キーを参照するようにします。

ミッドストリームのアドバンスト・キュー演算子を含むマッピングで、パラレルが true に設定されていると、マッピングで不適切な結果が生成される (2996088)

ミッドストリームのアドバンスト・キュー演算子を含むマッピングで、パラレルが true に設定されていると、マッピングで不適切な結果が生成されることがあります。アドバンスト・キュー演算子がソースでもターゲットでもなく、マッピングで中間演算子となる場合に、ミッドストリームと見なされます。

対応策

ミッドストリームのアドバンスト・キュー演算子を使用するには、パラレル行コードを false に設定します。

5.10 MDL インポートと MDL エクスポート

スクリプトまたはコマンドライン MDL からの MDL エクスポート

MDL 制御ファイルを作成して、キーワード SUPPORTEDLANGUAGESID を指定し、MDL データ・ファイルに他の（サポートされる）言語をエクスポートします。たとえば、次のようなワイルドカードによって他のすべての言語がエクスポートされます。

SUPPORTEDLANGUAGESID=*

特定の言語をエクスポートする場合は（リポジトリに複数のサポート言語が含まれる場合など）、言語の ISO ID を指定します。スペイン語の場合、次のように指定します。

SUPPORTEDLANGUAGESID=es_ES

MDL 制御ファイルを使用した OMBEXPORT コマンドの例を次に示します。

```
OMBEXPORT TO MDL_FILE 'd:/mdl/exp1.mdl' FROM PROJECT 'MY_PROJECT'  
CONTROL_FILE 'd:/mdl/parameters.ctl' OUTPUT LOG TO 'd:/mdl/exp1.log'
```

OWB Client から他の（サポートされる）言語はエクスポートできません（メタデータ・エクスポート）。

5.11 移行

Oracle Warehouse Builder では、キャラクタ・セットを切り替えるデータベース・アップグレードの移行がサポートされない (3582171)

Oracle Warehouse Builder では、キャラクタ・セットを切り替えるデータベース・アップグレードの移行がサポートされません。たとえば、ランタイム・ターゲット・スキーマを Oracle8i インスタンスから移行し、それを Oracle9i インスタンスで実行されている Oracle Warehouse Builder 10g にインポートすると、エラーが発生します。

5.12 変換時のマルチバイト文字

Oracle Warehouse Builder フラット・ファイル・サンプル・ウィザードは、マルチバイト文字を 1 バイトとして処理する (3066632)

Oracle Warehouse Builder フラット・ファイル・サンプル・ウィザードでは、日本語に変換したデリミタ付きファイルのマルチバイト文字が正しく処理されません。サンプル・ウィザードでは、デリミタ付きファイルにあるマルチバイト文字が 1 バイトとして処理されます。

対応策

フラット・ファイル・サンプル・ウィザードを使用してバイト数を手動で編集する必要があります。

ソース・モジュール名に NLS を使用すると、ターゲット・マッピング・スクリプトを配布できない (3229915)

変換されたソース・モジュール名にマルチバイト文字を使用した場合、ターゲット・マッピング・スクリプトを配布するとエラー (ORA-02083) が発生します。生成されたスクリプトには、CREATE DATABASE LINK 文と、変換されたソース・モジュール名である NLS DB_LINK が出力されます。この NLS DB_LINK 名は、CREATE DATABASE LINK 文でサポートされません。

対応策

ソース・モジュール名にはシングルバイト文字を使用します。たとえば、
SOURCE@DATABASE のように使用します。

NLS : Oracle Warehouse Builder では、マルチバイト文字を使用するオブジェクトにアップグレード・スクリプトは生成されない (3100554)

Oracle Warehouse Builder では、マルチバイト文字をオブジェクト名や列名の定義の中で使用するオブジェクトの場合、アップグレード・スクリプトが生成されません。

現行のリリースでは、この不具合に対する対応策はありません。

Oracle Warehouse Builder Design Brower が日本語に変換されない (2844894)

Oracle Warehouse Builder Design Brower は iAS と統合した場合にのみ変換されます。Design Brower クライアントは、次回のリリースのスタンドアロン・バージョンでも変換される予定です。

5.13 複数の Name and Address ソフトウェア・プロバイダ

Name and Address コンポーネントの長さフィールドを指定するユーザー (3003335)

Name and Address の出力コンポーネントの長さフィールドはデフォルトで 0 (ゼロ) に設定されます。Name and Address コンポーネントを適切に処理するには、すべての指定されたコンポーネントに長さフィールドを移入する必要があります。使用可能な長さの値については、Name and Address サービス・プロバイダのドキュメントを参照してください。

5.14 マルチ・ユーザーに関する注意事項

次の使用例では、マルチ・ユーザーに関する現在の機能について説明します。

使用例 1

デプロイメント・マネージャは、生成が実行されてから、コミットを実行します。これによってオブジェクトのロックが解除されます。オブジェクトは OMB Plus で変更できるようになります。デプロイメント・マネージャがコンソールで起動されると、このコミットは実行されないので、オブジェクトは、コミットが手動で実行されるまで、ロックされたままになります。

Runtime Repository と Design Repository 間で整合性を確保するには、配布のコミットが必要になります。Oracle Warehouse Builder では、「配布」をクリックしたとき（これによって「コミット」ダイアログ・ボックスが表示されます）と、生成が完了したときに、1回ずつコミットが実行されます。結果的には、2回目のコミットによって、生成結果がコミットされます。

生成が実行され、「配布前のランタイム・リポジトリの生成結果」画面が表示されると、生成スクリプトは配布の準備としてランタイム・プラットフォームに渡されます。配布に影響を与えることなく、ユーザーは設計オブジェクトを変更できます（他のクライアントまたはOMBを使用）。

使用例 2

オブジェクトはロックされていません。エディタまたはプロパティ・シートを開くと、オブジェクトがロックされます（他のセッションで UI または OMB を使用してオブジェクトにアクセスしようとすると、読み取り専用モードになります）。変更しないで、エディタまたはプロパティ・シートを閉じます。ロックが解除されます。

使用例 3

多くのオブジェクトでは、構成プロパティが開いていると、暗黙的に検証が実行されます。これによってオブジェクトが変更されますが、構成プロパティを閉じてもロックは解除されません。ただし、新しく作成されたオブジェクトまたは更新されたオブジェクトでは、検証が実行されます。変更されていないオブジェクトの構成パラメータ・ウィンドウを開くか、または閉じると、ロックが解除されます。

同一の OWB_HOME から同時に複数の Oracle Warehouse Builder セッションを実行する際に発生する問題 (2990726)

Oracle Warehouse Builder Client または OMB Plus、あるいは両方から複数のセッションを開始すると、クライアントで切り取り / コピー / 貼付けを実行するとき、または OMB Plus で OMBCOPY OMBMOVE スクリプト・コマンドを使用するときに問題が発生することがあります。これは、現在 Oracle Warehouse Builder では、単一のクリップボードしか許可されていないためです。次の問題が発生する可能性があります。

- 他のセッションでクリップボードに書き込みを行っている際に、ユーザーがクリップボードに書き込みしようとすると、その操作は失敗します。
- 他のセッションでクリップボードから読み取りを行っている際に、ユーザーがクリップボードから読み取ろうとすると、予測不可能な結果になります。操作は完全に失敗するか、部分的にインポートできることもあります。
- 他のセッションでクリップボードに書き込みを行っている際に、ユーザーがクリップボードから読み取ろうとすると、クリップボードから不適切な内容がインポートされることがあります。インポートに成功する可能性は予測できません。

対応策

別のセッションでクリップボードを使用しないでください。1つのセッションでクリップボードの使用を完了してから、別のセッションで使用してください。

5.15 Oracle Enterprise Manager

PERF: OEM のジョブ実行パフォーマンスに関する問題 (2614173)

OEM を使用してジョブを実行する場合、OEM コンソールに表示される実際のジョブ完了と、（ジョブが完了した）OEM によって通知されるランタイム・プラットフォームの間に、大幅な遅延があります。ジョブが正常に完了しても、50 秒の遅延があります。

対応策

通知まで 1 ~ 2 分お待ちください。

5.16 OMB Plus

二重引用符が正規表現で一致しない場合、OMB Plus は例外エラーを返して、ハングアップする (2778229)

Jacl での既知の問題により、OMB Plus は例外を返して、ハングアップします。文字列の二重引用符が正規表現で一致しない場合、このような状況になります。

OMB Plus では次の例外が返されます。

Exception in thread "main" java.lang.StringIndexOutOfBoundsException: String index out of range: -1

対応策

スクリプトでは、常に正規表現の二重引用符と一致させます。

5.17 プロセス・フロー

Oracle8i R8.1.7 のデータベースでプロセス・フローが使用できない

Oracle8i R8.1.7 のデータベースでの制限により、Oracle Warehouse Builder からこのデータベースにプロセス・フローを配布できません。

プロジェクト間でプロセス・フローをコピーする場合に、貼付けが使用できない (2803158)

プロセス・フローはコピーできますが、他のプロジェクトにプロセス・フローを貼り付かれません。このリリースでは、プロセス・フローで調整オプションが使用できないためです。

プロセス・フローに、プロセス・フローとして同一名のマッピングまたは外部プロセスが含まれる場合、プロセス・フローがハングアップする (2823721)

プロセス・フローに、プロセス・フローとして同一名のマッピングまたは外部プロセスが含まれる場合、そのマッピング・アクティビティまたは外部プロセス・アクティビティを実行しようとすると、プロセス・フローがハングアップします。

対応策

信頼性が高い配布や実行では、同じランタイム・プラットフォームに配布されるすべてのプロセス・フロー、マッピングおよび外部プロセスに、一意の名前を割り当てます。プロセス・フロー、マッピング、または外部プロセスの名前を変更します。マッピングの名前を変更した場合、プロセス・フローからそのマッピング・アクティビティを削除し、新しい名前のマッピング・アクティビティを追加します。

5.18 RAC

Oracle Warehouse Builder 10g は、現在 RAC データベースに対して動作が保証されていません。

ファイルをコピーする際の問題が原因で、RAC に OWB をインストールできない (3567100)

Oracle Warehouse Builder 10g を RAC ノードにインストールする場合は、ローカル・インストール・モードを使用する必要があります。

RAC データベースに Runtime Repository を作成できない (3569889)

10g RAC データベースに Runtime Repository を作成しようとすると、インストールがエラー INS-0029 で失敗する可能性があります。

5.19 Runtime Audit Browser

次のページに、「ネット・サービス名」フィールドが追加されました。

- 「ログイン」ページ (クライアント)
- 「データベース・リンクの作成」ページ (Portal)
- 「データベース・リンクの編集」ページ (Portal)

このフィールドでは、データベースの TNS 名を入力します。TNS 名には `tnsnames.ora` ファイルのサービス名が含まれます。最大 30 文字です。

ホスト名 / ポート番号 / サービス名の組合せ、またはネット・サービス名 / サービス名の組合せを使用して、データベースのロケーションを定義できます。ネット・サービス名は、`tnsnames.ora` ファイルで定義されます。ネット・サービス名は適切な Oracle ホームに定義する必要があります。たとえば、ネット・サービス名によって識別されるロケーションに配布するには、ネット・サービス名をランタイム・プラットフォーム・サービスの Oracle ホームに定義する必要があります。データベース・リンクは、<サービス名> @<コネクタ名> の形式で生成されます。グローバル名が `true` に設定されている場合は、ロケーションに指定するサービス名と、リンク先のデータベースのグローバル名が一致する必要があります。

5.20 セキュリティ

プロジェクトが固定されると、サービスにセキュリティが適用されない (2661282)

このリリースでは、mdl インポート、mdl エクスポート、生成など、特定のサービス・レベルの操作が、固定されたプロジェクトで無効になります。このような状況を回避するために、別の方法を使用することもできます。

Virtual Private Database (VPD) で保護されたターゲットにデータをマージするように設定したマッピングを実行するとエラーが発生する

ロード・オプションを「MERGE」に設定し、ターゲットに VPD スキーマが適用されているマッピングを実行すると、「ORA-28132: MERGE INTO 構文ではセキュリティ・ポリシーをサポートしていません」というエラー・メッセージが表示されます。これは、Oracle Warehouse Builder 9i 以上のリリースでのみ発生します。

対応策

このエラーを回避するには、次のようなセキュリティ基準に応じたソリューションを選択します。

Oracle Warehouse Builder のターゲット・スキーマの所有者を VPD ポリシーから削除します。その場合は、ユーザーに EXEMPT ACCESS POLICY 権限を付与します。詳細は、<http://metalink.oracle.com> の「note 174799.1」を参照してください。

VPD ポリシーを Select 権限にのみ適用します。このソリューションは、セキュリティの関係上、EXEMPT ACCESS POLICY を Oracle Warehouse Builder のターゲット・スキーマ・ユーザーに付与できない場合に適しています。このセキュリティ・ポリシーを適用する場合は、次のようなコマンドを実行します。

```
Execute dbms_rls.add_policy('WH', 'SALES', 'SALES_ACC_POLICY',
    'WH', 'SALES_ACC_FUNC', 'SELECT')
```

WH スキーマの SALES 表が問合せまたは副問合せで参照されると (SELECT アクセス)、サーバーは WH スキーマの SALES_ACC_FUNC ファンクションをコールします。このファンクションは、SALES_ACC_POLICY ポリシーの現行のユーザーに固有の条件を返します。これにより、Oracle Warehouse Builder が WH スキーマで MERGE 文を実行しながら、レポートするユーザーに対しても適切な VPD データの保護とパーティションを提供することが可能になります。

厳密なセキュリティ・ポリシーが必要なため、前述のソリューションを実行できない場合は、Oracle Warehouse Builder が MERGE 文のかわりに INSERT 文や UPDATE 文を生成するよう設定できます。その場合は、ターゲット・モジュールを作成するときに、タ

ゲット・スキーマのバージョンを 8i に設定し、コードが生成されたファイルを配布します。Oracle8i では、MERGE 構文がサポートされていないため、Oracle Warehouse Builder では、8i モジュールに対して常に INSERT または UPDATE 構文が生成されます。生成されたファイルは、Oracle Warehouse Builder スクリプト言語を使用してターゲット・スキーマに配布します。Oracle8i モジュールから直接 9i 以上のデータベースに配布することはできません。

または、INSERT 文や UPDATE 文を分離し、別々に実行できるようにマッピングを設計することもできます。ただし、パフォーマンスは低下します。たとえば、1 つのマッピングから、INSERT のみを実行するマッピングと UPDATE のみを実行するマッピングを作成することができます。

5.21 SQL*Loader

SQL*Loader に対するモデル前トリガーとモデル後トリガー (1524760)

SQL*Loader に対するモデル前トリガーとモデル後トリガーが正常に機能しません。

対応策

マッピング前トリガーまたはマッピング後トリガーで必要としたファンクションの外部プロセスを定義し、OEM または Workflow を使用して SQL*Loader マッピングの前または後に外部プロセスをコールできます。

SQL* Loader 制御ファイルとログ・ファイルの名前とロケーションの構成パラメータ (2793993)

構成プロパティ・シートで、SQL*Loader 制御ファイルとログ・ファイルの名前とロケーションを指定できます。これらの構成プロパティで指定された値はどこにも適用されず、ランタイムではデフォルト値が使用されます。

5.22 アップグレード

Warehouse Upgrade で索引が削除できない (1477144、1668554)

Oracle Warehouse Builder Repository 内のモデルから索引を削除する場合、Warehouse Upgrade では、データ・ウェアハウスから索引が削除されません。アップグレード・スクリプトは正常に作成および配布されますが、索引はデータベースに残ったままです。

対応策

Oracle Warehouse Builder の外部にある別のデータベース・ツール (SQL*Plus または Enterprise Manager など) を使用して索引を削除します。

パーティションの値と Warehouse Upgrade スクリプト (1811047)

パーティションの値が変更されたり、以前に配布されたパーティションに新しいパーティション・キーが追加されたオブジェクトには、Warehouse Upgrade スクリプトが正しく生成されません。

対応策

外部の Oracle Database ツール (SQL*Plus または Enterprise Manager) を使用して、パーティションをいったん削除して再び作成します。

HP-UX 上の RTP を使用して Upgrade スクリプトを生成する (3102139)

Oracle Warehouse Builder では、HP-UX 上のランタイム・プラットフォームを使用した Upgrade スクリプトの生成はできません。デプロイメント・マネージャで次のようなメッセージが表示されます。

RPE-01008: この要求のリカバリを実行中です。

RTC-5351: A serious error occurred whilst generating the Impact Report. Please review the Runtime Service Log.

対応策

JVM は、\$ORACLE_HOME/lib32 にある 32 ビット用の libocijdbc9.sl を探しています。32 ビット用のライブラリが参照されるように、SHLIB_PATH 環境変数を設定する必要があります。

<OWB_home>/owb/bin/unix にある run_service.sh ファイルを編集します。

次の行を追加します。

```
SHLIB_PATH=${RTHOME}/lib32:${SHLIB_PATH}  
export SHLIB_PATH
```

その後、stop_service.sql を使用してサービスを停止し、start_service.sql を使用してサービスを開始します。

全データベース・エクスポート・オプションを使用して、ワークフローを 9i から 10g にアップグレードする場合、Oracle9i スキーマが実行されている必要がある

全データベース・エクスポートを正常に実行して、ワークフローを 9i から 10g にアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Warehouse Builder 9i で、9i Database からの完全エクスポートを実行します。
2. 9i Database を再起動します。
3. Oracle Warehouse Builder 10g で、10g Database へのインポートを実行します。
4. Design Repository のアップグレード・スクリプトを実行します。
5. Runtime Repository のアップグレード・スクリプトを実行します。
6. Oracle Warehouse Builder 10g で、ワークフローのロケーションを 10g スキーマに再登録します。

Oracle9i Database を実行しないでワークフローを Oracle9i から Oracle 10g にアップグレードすると、「12541: Failed to connect to this OWF instance using <connect string>. OWF was NOT upgraded.」というエラーが表示されます。

対応策

エラー 12541 が表示された場合は、Oracle Warehouse Builder Client に 10g ワークフロー環境を作成します。

5.23 Oracle Warehouse Builder Browser

Oracle9iAS Portal に追加された Oracle Warehouse Builder Browser のポートレットを最小化できない (2429528)

OWB Browser のポートレットは最小化できません。Oracle9i Application Server リリース 2 (9.0.2) 以上でのみ、ポートレットを閉じる機能がサポートされます。

系統レポートと影響分析レポートを使用する際の制限

最初の XML ツールキット (バージョン 9.0.1) がインストールされている場合、Oracle9i Database リリース 1 (9.0.1) のインスタンスでは系統レポートと影響分析レポートが動作しません。SYS スキーマで、9.0.2 以上のバージョンをインストールします。9.0.2 では問題が発生しません。

Oracle9i Warehouse Builder Repository がデフォルト以外の表領域にインストールされ、EXTENT MANAGEMENT が LOCAL に、SEGMENT SPACE MANAGEMENT が AUTO に設定されている場合、Oracle9i Database リリース 1 (9.0.1) のインスタンスでは系統レポートと影響分析レポートが動作しません。Oracle Warehouse Builder Repository がデフォルトの表領域にインストールされていれば、レポートは動作します。

Oracle Warehouse Builder Browser スキーマを Oracle Warehouse Builder Repository インスタンスではなく、iAS インスタンスにインストールします。

5.24 XML ツールキット

Oracle8i および Oracle9i Database リリース 1 (9.0.1) の制限により、Oracle Warehouse Builder XML ツールキットでスタイルシートを適用すると、サーバーの JVM プロセスのメモリーによる制約を受けます。スタイルシートを必要としないか、単純なスタイルシートを使用する XML ファイル (10MB 未満) を使用するようにしてください。文書スプリッタ機能を利用している場合は、これ以上大きい XML ファイルでも処理できます。あるいは、SQL*Loader も使用できます。Oracle9i Database リリース 2 (9.2.0) では、XML 機能によって、これらの問題が解消されます。

6 ドキュメントの正誤表

第 10 章「プロセス・フローの設計」(10-24 ページ)

見出し「ファイルが存在」の文「「アクティビティ・ビュー」パネルで、ファイル・パスの文字列値を入力します。」に誤りがあります。

正しい文は、「「アクティビティ・ビュー」パネルで、ファイル名の文字列値を入力します。」です。「アクティビティ・ビュー」パネルにはファイルのパスではなく、ファイル名を入力する必要があります。ファイル名を入力しないと、プロセス・フローは失敗します。

Oracle Warehouse Builder 10g リリース 1 (10.1) でサポートされない Express のブリッジ

このリリースからは、Oracle Warehouse Builder で Express のブリッジがサポートされません。ユーザーズ・ガイドの Express のブリッジに関する記述は無効になります。ユーザーズ・ガイドの次の記述は無視してください。

- 第 2 章「Warehouse Builder スタート・ガイド」の「Warehouse Builder 転送ウィザードの使用」(2-41 ページ)
- 第 22 章「その他の BI 製品と Warehouse Builder のメタデータの統合」の Express のブリッジに関するすべての記述

リモート実行

このリリースからは、スクリプト owb/rtp/sql/set_oem_home.sql を使用して、Oracle Warehouse Builder Runtime Service が OEM サーバーにアクセスするときに正しい OEM クライアント・コードを使用するよう構成できます。

Windows または UNIX で実行する際には、サポートされている OEM バージョンごとに Runtime Service を個別に構成します。SQL Plus プロンプトからスクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
sqlplus repowner/repowner@repos @set_oem_home.sql  
%OEM_VERSION% %OS% %RT_HOME% %DB_HOME%
```

ここで、

OEM_VERSION は、この構成が適用されるプラットフォームを示します。有効な値は、10.1、9.2 または 9.0 です。

OS はオペレーティング・システムです。有効な値は、NT (Windows の場合) または UNIX です。

RT_HOME は、OWB Runtime Service の DB_HOME の Oracle ホーム・フォルダです。

DB_HOME は、OEM クライアントの指定バージョンが含まれる Oracle ホーム・フォルダです。

たとえば、次のようなコマンドを入力します。

```
sqlplus repowner/reponwer@repos @set_oem_home.sql  
9.2 NT d:$oracle$owbhome d:$oracle$oemhome
```

7 解決済の問題

このリリースには、9.2.0.4 パッチ・リリースの不具合の修正もすべて含まれています。

2708335、2711993 INSERT/UPDATE: 異なるモードに異なる行番号

2936225 相関コミットが true に設定され、操作モードがセット・ベースから行ベースへのフェイル・オーバーになっていると、マッピングによって不適切な結果が生成される

3031142 DECIMAL フィールドを含む固定長のフラット・ファイルをサンプリングしようとすると、不適切なエラーが発生する

3031449 DECIMAL 型のフィールドを含むフラット・ファイルをベースにすると、外部表で不適切な結果が生成されることがある

3029007 OWB Repository Assistant での一貫性のない動作によって、セキュリティ機能が妨害される可能性がある

2048683 サイズの大きいオブジェクトの改名に数分かかる

2981639 RTC-5312: RDB ゲートウェイ・マッピングの配布中にエラーが発生する

2696005 パラレル行コードが 'true' に設定されていて、アンピポット演算子、完全外部結合を含み、ロード・タイプが TRUNCATE/INSERT であるマッピング

2711405 テーブル・ファンクション演算子を含み、バルクでないマッピングの実行時に問題が発生する

2711518 2つのテーブル・ファンクション演算子を含むマッピングが連続して実行される

2721852 ターゲットに予測不可能なデータが挿入される：リモート・シノニムから選択してマージする

2712141 3つのすべてのモードで異なる結果

3011029 Oracle9i Database リリース 2 (9.2.0) でマッピングの実行や配布が失敗する

2974597 CASE 文または DECODE 文とテーブル・ファンクションを含むマッピングは失敗する

2804168、2803645、2805647 OMB Plus でディメンション・スクリプトを生成すると、ディメンション表スクリプトが上書きされる

3028355 Runtime Audit Browser のレポートから最終ノードを削除しない